

### III 水のマスタープランの目標・基本方針

#### 1 水のマスタープランのコンセプト

水のマスタープランの対象とするものは、身近でスポット的な水辺環境からマクロな視野で水を捉える水循環系までを含めており、それは市域内を含めた水の流れ、水に関わる自然環境、水に関わる市民活動及びそれらのための各種施策を対象としています。また、水のマスタープランの役割は、市域に「環境」、「親水」、「治水」を考慮した水環境を創造するための方向性・基本方針を示すことにあります。

そこで、宝塚市水のマスタープラン全体構想及び3つの視点（環境・親水・治水）のコンセプトを設定します。

セグロセキレイが棲むまちたからづか (全体構想を表現するコンセプト)		
自然と共生する水辺の創出 (環境を表現するコンセプト)	きれいな水の流れるまちの創出 (親水を表現するコンセプト)	安全・安心なまちの創出 (治水を表現するコンセプト)

#### 【セグロセキレイとは】



- セグロセキレイは宝塚市の市鳥です。
- 生活圏が水辺で、水辺昆虫や水生動物をえさとしているため、まさに水辺環境の豊かさを表現する鳥といえます。
- 武庫川をはじめとし市内の中小河川に生息し、冬には住宅街や市街地にも現れます。
- 水辺を歩きながら昆虫などの小動物を捕えます。
- 時にはフライングキャッチで羽化したての昆虫を捕まえます。
- 「ジュッジュッ、ジュッジュッ」と濁った声でさえずります。

また、前述の内容を踏まえて水のマスタープランを表すシンボルとして以下のイラストを作成しました。今後は、市域の水環境に関わる施策等でこのイラストを利用し、市民の方々に、理解と関心を持っていただきたいと思います。



図 2 水のマスタープランのイラスト

## 2 市域の水環境の課題の原因に対する改善項目

### 2.1 改善項目と施策の関係

課題とその原因を、宝塚市南部市街地、西谷地区及び市域全域の3つの地域に整理しました。そこで、原因に対する改善項目も3つの地域で整理し、それを踏まえた上でブロックごとの原因に対する改善項目を整理します。また、整理されたブロックごとの改善項目より、ブロックごとの水のマスタープランの方向性を整理します。

また、整理されたブロックごとの改善項目を実現し市域の水環境を改善するために考えられる施策を整理します。

水のマスタープランの施策の多くは総合治水計画<sup>1)</sup>で実施される施策を示しており、地域の方々の協力を得て整備することが重要と言えます。

<sup>1)</sup> 総合治水とは： 河川内だけの対策だけではなく、流域内の関係機関の協力によって流域貯留浸透施設、自然値の保全などの治水対策を行う「総合的な治水対策」のことです。

表 2 市域の課題・原因及びその改善項目の方針

地域	コンセプト	課題	原因	改善項目	施策
南部市街地 (ブロック ~ ブロック)	■ 自然と共生する水辺の創出	■ 普段の河川・水路流量の減少 ■ 水辺に自然が乏しい	■ 開発等による山林の減少	■ 保水機能確保のための・山林・農地・自然地の保全・回復 ■ 浸透施設の整備	里山・山林の保全 雨水浸透施設の導入・普及 農地・自然地の保全 近自然型工法による川づくり
			■ 都市化・農地の宅地化等による不浸透域の増加	■ 浸透施設の整備 ■ 農地・自然地の保全・保水機能の確保	
			■ コンクリート・ブロックによる水辺・護岸の整備	■ 動植物の生息環境の確保	
	■ きれいな水の流れるまちの創出	■ 親水性に乏しい ■ 水に親しみ、集まれる空間に乏しい ■ 水辺に近づきにくい	■ 普段の河川・水路の水量が少ない	■ 浸透施設の整備 ■ 農地・自然地の保全・保水機能の確保	農地・自然地の保全 里山・山林の保全 雨水浸透施設の導入・普及 ため池の貯留水の利用 農業用水路網の利用 ため池の水辺空間の利用 親水空間の創出 水と緑のネットワークの創出
			■ 水環境が有効利用されていない	■ 水辺空間(農業用水路網、ため池)の利用 ■ 既存の水辺環境の保全 ■ 水辺空間の整備 ■ 水と緑のネットワークの整備	
			■ 水辺には危険もあるため、水辺に近づきにくくしている	■ 水辺空間の整備 ■ ため池の保全	
■ 安全・安心なまちの創出	■ 浸水被害が生じる箇所がある。 ■ 降雨時の流出量の増加	■ 雨水排水施設(雨水下水道)の未整備 ■ 実績の降雨量に対して計画されている雨量が小さい ■ 雨水の流下速度の増加、流出時間の短縮により流出量の先鋭化	■ 実態をとらえた雨水排水計画による施設の整備 ■ 流域での雨水浸透施設、雨水貯留施設などの洪水流出抑制施設の整備 ■ 保水機能確保のための山林・農地・自然地の保全・回復	河川・水路改修 雨水ポンプ施設の導入 農地の保全 里山・山林の保全 雨水浸透施設の導入・普及 雨水貯留施設の導入・普及 洪水情報システムの導入 浸水想定区域図・ハザードマップの作成・公表 開発指導要綱・浸透施設設置基準等の作成 下水道雨水排水計画の見直し	
西谷地区 (ブロック)	■ 自然と共生する水辺の創出	■ 川下川貯水池、千刈水源池など武庫川水系の水源に位置し、多くの水源林を抱えるが、里山・森林の維持管理が困難で荒廃している。	■ 山林の所有者・管理者の高齢化・減少	■ 里山・山林の保全	里山・山林の保全・維持管理
	■ きれいな水の流れるまちの創出	■ 多くのため池を親水空間として利用できていない	■ ため池の数は多いが、川の上流部に位置し、生活の場から離れている	■ 比較的身近なため池の周辺環境整備を促進する	ため池を親水空間として利用
	■ 安全・安心なまちの創出	■ 僧川が洪水時に武庫川の水位の影響で水が溢れる ■ 武庫川沿いの武田尾地区が浸水する。	■ 僧川の護岸高不足 ■ 武庫川の流下能力不足	■ 河川改修の推進 ■ 実態をとらえた雨水排水計画による施設の整備	河川・水路改修
全市共通	■ 自然と共生する水辺の創出 ■ きれいな水の流れるまちの創出	■ ため池の維持・管理が出来ていない	■ 都市化による農地の減少 ■ 農業従事者の減少	■ ため池の保全	ため池の保全・維持管理
	■ 節水型社会の推進(水資源の有効利用)	■ 取水量のうち約半分を地下水に依存している。 ■ 取水量がわずかながらも増加傾向にある。	■ 人口の増加による必要水量の増加 ■ 多量消費型の生活様式	■ 節水・省水を心掛ける社会・生活の推進	地下水利用の適正化 節水の促進 農水の有効利用 中水 <sup>2)</sup> 利用の促進

注 は環境・ は親水・ は治水・ は環境と親水・ はそれ以外に関する課題・原因・改善項目・施策を示す。

2) 中水利用：雨水、生活排水、下水処理水などを再利用することを表します。

## 2.2 考えられる施策

宝塚市における水循環・水環境の問題とそれに対する施策とコンセプト、ブロックの関係は下表のようになっています。

表 1 施策とコンセプト・ブロックの関係

施策	コンセプト			ブロック						
	自然と共生する水辺の創出（環境）	きれいな水の流れるまちの創出（親水）	安全・安心なまちの創出（治水）	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
河川・水路改修										
雨水ポンプ施設の導入										
洪水情報システムの導入										
浸水想定区域図・ハザードマップの作成・公表										
開発指導要綱・浸透施設設置基準の作成										
下水道雨水排水計画の見直し										
農地・自然地の保全										
里山・山林の保全・維持管理										
雨水浸透施設の導入・普及										
雨水貯留施設の導入・普及										
ため池の保全・維持管理										
ため池の貯留水の利用										
ため池の水辺空間の利用										
親水空間としての利用										
農業用水路網の利用										
農業用水の有効利用										
水と緑のネットワークの創出										
地下水利用の適正化										
節水の促進										
中水利用の促進										
親水空間の創出										

注 は直接的な効果はないが、水量が増加することなどにより水辺のせせらぎ等が復活するなど間接的な効果を示します。各施策は行政だけで実施できるものではなく、市民の方々の協力が必要不可欠です。そのため、施策の計画・実施・モニタリングへの市民参画を進めます。また、水辺の安全性・水環境改善などの理解を深めるための啓発活動・環境教育などへの市民参画を進めます。